

# 令和6年度 浜松市国語科研究部4ブロック（6・7部会）

## 第3回研修会報告

1 日 時 令和6年10月30日（水）13：50～16：30

2 場 所 浜松市立雄踏小学校

3 内 容

(1) 全体会（にこにこルーム2） 顧問校長挨拶 庄内学園 石田直美校長先生

- ・本日の視点…児童が、誰とどのように関わり、どうやって学びの調整をしているのか。  
…そのような調整をするための、教師の手立ては何か。
- ・今日の学びを、自分の指導する子供たちに返すことで、今日の研修は成立する。自分にどう生かすか、自分ならどうするか、考えながら参観してほしい。

(2) 授業参観、グループ協議と共有、指導講評

授業者 雄踏小学校教諭 太田 征宏先生（6年5組）

単元名 『友達の心を動かすパンフレットを作ろう！』

① 授業者より

- ・「友達の心を動かす」＝「～してみたい！と思わせること」のように、学習のポイントとなることを子供たちに分かりやすい言葉で伝えたことで、子供たちが何を目指せばよいのか理解し、意欲をもって学習を進めることができた。
- ・アドバイスの視点を設定し、繰り返し確認することで、子供たちのアドバイスがより具体的な内容になり、考えを明確に伝えることができた。
- ・友達のパンフレットの内容をほめることはできていたが、アドバイスとなると腰が引けてしまう姿も見られた。また、資料から必要な情報を引用する子が少なかった。

② グループ協議より

- 事前の準備、掲示などの学習環境づくりがしっかりしており、子供たちがよい雰囲気での学習に取り組んでいた。
- 前時に教師のモデルを使ってアドバイスをする学習を行い、当日もその資料を掲示したことで、子供たちの視点がより明確で具体的なものになり、調整がしやすくなった。
- 「どこを直すのか」だけでなく、「どう直すか」をより具体的な言葉で伝えられるとよい。「こういう言葉を使ってみたら」「〇〇さんのパンフレットで、△△みたいな表現があったよ。」などの伝え方をしている班もあった。
- ふせん記入→話す→メモ…の手順に時間がかかっていた。直接書き込んだり、拡大したパンフレットをみんなで見ながら話し合ったりすると、よりブラッシュアップに時間が使えたと思う。

③ 指導講評 三ヶ日中学校 江間昌史校長先生

- 生き生きとした子供の姿に、たくさんのヒントをもらい、グループ協議も盛り上がった。それだけ価値のある授業だった。
- 「伝えてはいるが、伝わっていない」ことは、国語に限らず生活の中でよくある。だからこそ、国語主任は国語の授業を司る立場として、「自分の考えを伝え合う」ことを積み重ねる場を設定することに、意識して取り組んでいく必要がある。
- 「自分だったらどうするか」を大切に、これからも研修を重ねてほしい。